

5. 意向把握（アンケート・ヒアリング）及び堺臨海部活性化検討懇話会の概要

5.1 意向把握（アンケート・ヒアリング）の概要

(1) 目的

ビジョンを策定するにあたり、素案の作成段階から、日頃、堺の臨海部で様々な活動を展開している市民、漁業者、NPO、企業等、小学生から臨海部の現状・課題、要望・提案を広く聴き、可能な限りビジョンに反映していくことを目的としました。

(2) 対象と手法

- ・市民：アンケート
 - 平成 22 年度市政モニター「臨海部のあらたなまちづくりについて」
- ・自治会組織：意見交換
 - 堺区自治連合協議会
 - 西区自治連合協議会
- ・漁業関係者：意見交換
 - 堺市漁業協同組合連合会
 - 堺市浜寺漁業協同組合
- ・NPO・市民団体等の団体組織（市 HP で意見交換希望団体を募集、個別依頼）：意見交換
 - 堺旧港周辺を考える会
 - 大阪自然環境保全協会
 - 浜寺公園自然の会
 - 釣り文化協会
- ・臨海部立地・活動企業：アンケート
- ・小学生：アンケート
 - 各区高学年 1 学級を任意で抽出

(3) 対象とする事項

- 堺臨海部における賑わい・憩いづくり、海陸での環境創造・保全に係るハード、ソフト施策
- ・ハード施策例：砂浜、干潟、生物配慮護岸、緑地など海域・陸域での自然環境整備・保全、臨海部へのアクセス、遊歩道等の整備 など
 - ・ソフト施策例：環境学習、漁業体験、産業・漁業観光、清掃活動、研究開発活動、イベント・クルーズ運航、景観配慮、地球環境への取組み、CSR 活動 等

(4) 時期

- ・ 1 回目（平成 23 年 6 月～7 月）：ビジョン策定前の状況把握
- ・ 2 回目（平成 23 年 9～10 月）：ビジョンのたたき台に対する意見把握
（市政モニターは平成 23 年 1～2 月に実施）

5.2 堺臨海部活性化検討懇話会の概要

(1) 目的

堺臨海部における賑わい、憩いづくり等の諸課題に対応し、更なる堺臨海部の活性化を図ることを目的とするビジョンの策定について検討するに当たり、広く有識者等から意見・提言・助言をいただくことを目的としました。

(2) 委員

氏名	所属・職名
近藤 健雄※	日本大学理工学部 海洋建築工学科 教授
下村 泰彦	大阪府立大学大学院 生命環境科学研究科 准教授
狭間 恵三子	(財)大阪観光コンベンション協会 情報発信担当部長
藤本 英子	京都市立芸術大学 美術学部デザイン科・大学院美術研究科 教授
矢持 進	大阪市立大学 大学院工学研究都市系専攻・工学部都市学科環境水域工学 教授

※座長

(3) 経過

< 第 1 回 >

日時：平成 23 年 7 月 25 日（月）、午後 1 時～3 時（現地視察）、3 時 15 分～5 時
 場所：府営浜寺公園（西区浜寺公園町 2 丁）内 レストハウス浜寺 2 階大会議室
 議題：堺臨海部活性化検討懇話会の趣旨と目的について

堺臨海部活性化検討～現状・課題・基本理念等について～

< 第 2 回 >

日時：平成 23 年 10 月 12 日（水）、午後 2 時～4 時
 場所：市役所 本館 3 階 第 1 会議室
 議題：第 1 回懇話会における意見と対応について

堺臨海部活性化検討～臨海部の活性化方策について～

< 第 3 回 >

日時：平成 23 年 12 月 14 日（水）、午後 2 時～5 時
 場所：市役所 高層館 20 階 第 1 特別会議室
 議題：第 2 回懇話会における意見と対応および臨海部活性化等について

施策展開、目標、検討事項等について

堺臨海部活性化検討のとりまとめについて

用語集

用語	意味	ページ
あ行		
青潮	海水に含まれる硫黄がコロイド化し、海水が白濁する現象である。夏～秋に東京湾で多く発生することが知られている。赤潮と同様に魚類の大量死を引き起こす事がある	16
アクセスディンギー	身体に障害をもつ人であっても、安全にセイリングを楽しむことができるようにと設計された小型ヨット	67
浅場化	堺浜において事業が推進されている臨海部の埋立により深掘している箇所を、当時の海岸のように水深が浅い場とする取組み	84
アドプトシーサイド	海岸や港湾の一定区間を地元自治会や市民グループなどの団体が自主的かつ継続的に美化活動を行い、関係市町と港湾管理者が支援することにより、地域に愛されるきれいな海岸・港湾環境の保全への取組み	68
エコトーン	質の異なる環境が互いに接している境目で、自然に放置され自然の植物が育成し、そこに適した生物が生きて独特の景観を保っている場所	27
NPO	NonProfit Organization の略。 様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対して収益を分配することを目的としない団体の総称	4
大阪湾フェニックス計画	大阪湾において、「大阪湾圏域の広域処理対象区域から発生する廃棄物を適正に処理し、大阪湾圏域の生活環境の保全を図ること」「港湾の秩序ある整備により、港湾機能の再編・拡充を図ること」「新たな埋立地を活用し、地域の均衡ある発展に寄与すること」を目的とし、長期安定的にまた広域的に廃棄物を適正処理するための計画	19
か行		
海洋性レクリエーション	ヨット、モーターボートから海水浴、クルーズ等の海域での娯楽、余暇、レジャー等	34
基幹的広域防災拠点	都道府県単位では対応不可能な広域かつ甚大な災害に対して、国と地方自治体が協力して応急復旧活動を展開するための広域防災拠点 首都圏と京阪神圏においては、政府（都市再生本部）の都市再生プロジェクトに基づき、国土交通省が事業主体となって整備が進められている	54
汽水域	河川・湖沼および沿海などの水域のうち、淡水と海水が混在する区域	18
クリーンエネルギー	電気や熱などのエネルギーに変えても CO ₂ や窒素酸化物 (NOx) などの有害物質を排出しない、または排出量が少ないエネルギー源（自然エネルギーや再生可能エネルギーと呼ばれる太陽光、水力、風力、地熱のほか、化石燃料ではあるが有害物質の発生が少ない天然ガスもクリーンエネルギーと呼ばれることがある）	27

か行（続き）		
グリーンカーボン	臨海部において、ヒートアイランド対策となるクールダムや CO2 吸収に寄与する大規模な緑地	18
グリーンベイ	先端・環境産業の集積が進むなど世界をリードする産業拠点	1
クールダム、クールライン	自然環境の大切さが実感できる「緑や水辺」をまちなかに取り入れる施策	18
COP10	Conference of the Parties の略。 多様な生き物や生息環境を守り、その恵みを将来にわたって利用するための国際条約「生物多様性条約」を結んだ国が集まる締約国会議で、平成 22 年 10 月に愛知県名古屋市中で開催された	18
混成護岸	台型の基礎部（捨石マウンド等）に直立した堤体を設けた防波堤	参-17
さ行		
再生可能エネルギー	太陽光・風力・水力・波力など、自然の営みから半永久的に得られ、継続して利用できるエネルギー （有限でいずれ枯渇する化石燃料と違い、エネルギー源が絶えず再生・供給され、地球環境への負荷が少ない）	28
自然共生社会	人間と地球に生きるすべての生物がともにくらすことができ、自然からの恵みを受け続けることができる社会	2
循環型社会	有限である資源を効率的に利用するとともに再生産を行って、持続可能な形で循環させながら利用していく社会	2
親水護岸	護岸としての機能を持ちつつ、人が水辺で楽しめるように配慮された護岸	12
CSR	Corporate Social Responsibility の略。 企業の社会的責任のことであり、企業が利益を追求するだけでなく、組織活動が社会へ与える影響に責任をもち、あらゆるステークホルダー（利害関係者：消費者、投資家等、及び社会全体）からの要求に対して適切な意思決定をすること	75
生物共生護岸	多様な生物が生息でき、周辺水質を浄化することができる護岸（堺臨海部では、堺浜において、生き物が戻ってくるように工夫された長さ約 90m の実験施設が設置されている）	16
生物多様性	生態系・生物群系または地球全体に、多様な生物が存在していること （生物の多様性に関する条約では「すべての生物（陸上生態系、海洋その他の水界生態系、これらが複合した生態系その他生息又は生育の場のいかんを問わない）の間の変異性をいうものとし、種内の多様性、種間の多様性及び生態系の多様性を含む」と定義されている）	2
た行		
直立護岸	矢板護岸により整備された、前面が鉛直になった防波堤	2
低炭素社会	二酸化炭素の排出が少ない社会のことで、低炭素型社会、脱炭素社会ともいう （主な具体的手法として、省エネルギー、熱機関燃料の化石燃料から再生可能エネルギーへの転換、建築物管理における対策等が挙げられる）	2

は行		
パークマネジメント	公園利用者の満足を創出し市民生活の豊かさに資するため、市民・NPO 等が主体となって、多角的な視点による事業を実施するとともに、結果を評価して継続的に改善を行っていくこと	52
白砂青松	白い砂と青々とした松（主にクロマツ）により形成される、日本の美しい海岸の風景のたとえ (堺臨海部は、かつて東洋一のリゾート地とうたわれた)	2
泊地	港湾において船舶を停泊させる水域のこと	7
曝気	水を空気にさらし、液体に空気を供給する行為のことである。浄水処理の方法の一つであり、酸素を供給することで水中の微生物有機物の分解を促進させるものである	52
ヒートアイランド	都市部の気温がその周辺の郊外部に比べて異常な高温を示す現象。高温により自然環境が影響を受け、住民の生活や健康にも影響を及ぼすことから、近年問題視されている	18
貧酸素水塊	水中溶存酸素量が極めて不足している孤立した水塊、あるいはこのような水塊の占める水域のことである。これらの移動により、海中あるいは海底に生息する生物の大量死が発生し、漁業や養殖業といった水産業において壊滅的な打撃をもたらすことがある閉鎖的な内湾（東京湾、伊勢湾、三河湾、大阪湾など）でよく発生する	16
PDCA マネジメントサイクル	事業活動における生産管理や品質管理などの管理業務を円滑に進める手法の一つである Plan（計画）→ Do（実行）→ Check（評価）→ Act（改善）の4段階を繰り返すことによって、業務を継続的に改善するものである	82
深掘跡	埋立用材、コンクリート骨材等として土砂採取がなされた結果、湾奥部で水深が深くなった場所をいう。貧酸素水塊の発生原因として問題視されている	23
覆砂	海底や湖底など底質改善を目的とした技術。ヘドロなどが発生し底質が悪化した底面へ砂等により覆うことである 覆砂による改善効果には、底質の改善、栄養塩の溶出量の削減、溶存酸素消費量の削減、水質の改善、生物相の回復がある	52
フライ&クルーズ	飛行機（フライ）と船旅（クルーズ）を組み合わせた旅行を示し、国際空港などから近く、周辺に魅力的な観光地が多い港は最適な港である	52
ブルーカーボン	海洋生物によって吸収される CO2 である 地球上の生物が固定化する炭素の 55% はブルーカーボンといわれており、日本の国土面積当たりの海外線延長は先進国でも最大級で、世界的にも主要なブルーカーボン貯蔵国である可能性がある	18